

## 1 事業名 **さんべ夢ステージ ～君こそが、未来のリーダーだ！～**

### 2 必要性

子ども・若者育成支援推進法（平成22年4月施行）に基づき、内閣府の子ども・若者育成支援推進本部によって子ども・若者育成支援推進大綱「子ども・若者ビジョン」（平成22年7月）が決定された。その理念の一部分に、「子ども・若者が、社会とのかかわりを自覚しつつ、自尊感情や自己肯定感をはぐくみ、自立した自己を確立するとともに、自らの力で未来の社会をよりよいものに変えていく力を身につけることができるよう支援します。」とある。また、この大綱の重点課題の中から抜粋すると「様々な体験や他者との交流を積み重ねることにより、自立した個人として必要な知識・能力・社会性やリーダーシップなどをはぐくみます。」とある。

このように、青年が様々な体験を通して、リーダーとしての資質を高めていくことができるよう国・地方公共団体・民間団体をはじめ、社会全体で支援することがより一層求められている。

本事業は、様々な体験や交流を通して「リーダーシップ」を学ぶとともに、自ら課題を発見し、「チームワーク」で解決していける青年の育成を目指しており、青少年教育の推進拠点としての国立青少年教育施設が先進的かつ継続的に取り組むべき事業である。

### 3 趣旨

主体的に社会に参画しようとする青年を対象に、事業の企画・運営を通してリーダーシップを身に付け、将来のリーダーとなるための体験を通じた学びを提供する事業である。「リーダーシップ」と「チームワーク」をキーワードに、企画・運営の様々な場面で合意形成・問題解決を繰り返す中で対人関係能力などリーダーとして必要な資質の向上を図ることをねらいとしている。

### 4 後援

島根県教育委員会、島根大学、島根県立大学、松江工業高等専門学校

### 5 期日

企画力・運営力アップセミナー編

平成22年 7月 2日（金） ～ 7月 4日（日）

想いを形にする編

第1回 平成22年 8月21日（土） ～ 8月22日（日）

第2回 平成22年 9月14日（火） ～ 9月15日（水）

第3回 平成22年10月15日（金） ～ 10月17日（日）

夢が現実になる本番編

平成22年10月22日（金） ～ 10月24日（日）

### 6 参加者

(1)募集対象・人数 大学生（短期・専門学校を含む） 社会人

企画力・運営力アップセミナー編 20人

想いを形にする編 20人（延べ）

夢が現実になる本番編 30人

## (2)参加人数

企画力・運営力アップセミナー編	18人
想いを形にする編	39人(延べ)
夢が現実になる本番編	32人
事業全体を通しての参加者実数	48人

## (3)参加者分析

### 企画力・運営力アップセミナー編

島根大学教育学部の学生が13名、島根県立大学浜田キャンパスの学生5名の参加があり、島根県内の大学生によるメンバー構成となった。昨年度からの課題となっていた1・2回生の参加者が減っていることについて、今回も島根大学から2回生の参加者はなく、1回生2名のみの参加であった。また、島根県立大学浜田キャンパスの学生は全員初参加であった。

参加目的については、過去参加経験のある学生は、「雰囲気作り・場作り、発信方法のスキルアップ、経験を生かす」等をあげ、初めての参加者は、「企画力向上、仲間との交流」をあげている。

### 想いを形にする編

島根大学の学生及び島根県立大学短期大学部松江キャンパスの学生の参加となった。1・2回生の参加は、第1回が2回生1名のみ。第2回は2回生1名、1回生9名と大幅に増えた。第3回は2回生2名、1回生7名と回を重ねるごとに1・2回生の参加者が増えていった。

### 夢が現実になる本番編

これまで参加した学生による声かけや、島根県新任教職員研修会のプログラムに認定してもらったことから当日は32名のスタッフが活動することができた。2回生の参加者は10名、1回生の参加者は12名と、半数以上を1・2回生が占めることとなった。

参加理由として「自己啓発のため」が多いが、編では「交友を広げる」をあげた参加者が多かった。

参加理由(抜粋)(複数回答あり)	編(18人)	編(39人)	編(32人)
内容に興味があった	6	20	16
自己啓発のため	11	17	12
交友を広げるため	3	9	10

## (4)参加者地域 島根県47名、鳥取県1名

## 7 参加経費

企画力・運営力アップセミナー編	3,100円
想いを形にする編	2,000円/回
夢が現実になる本番編	3,000円

## 8 講師

企画力・運営力アップセミナー編 木橋 悦二 氏  
(山口県十種ヶ峰青少年野外活動センター所長)

## 9 事業の内容

### (1)事業の特色

本事業は、3編シリーズとなっている。第1編は、企画・運営についての学びを活かし、企画の

骨格を作成する過程。第2編は、企画を具体化・実現化していく過程。第3編は、実際に企画を発表する過程になっており、長期的に様々な体験や他者との交流ができる場を設定している。これらの活動は参加者主体で行い、モチベーションを高めるとともに、青年たちの可能性や創造力を最大限発揮できる形にしている。また、広報・普及事業「さんべ祭」をこの事業の発表の場とすることで、活動を通して、市民性・社会性を身につけ、地域社会へ積極的に参画することができる。また、多数の青年が「さんべ祭」に参加することで地域コミュニティが活性化し、青年にとっても、地域にとっても実りの多い事業となっている。

## (2) 企画のポイント

企画・運営における重要なポイントを理解し、それを活かしながら実際に「リーダーシップ」や「チームワーク」を体験する。また、企画し運営する過程において、コミュニケーション能力・合意形成能力・問題解決能力等を必要とする場面を体験する。そして、様々な体験を通してリーダーシップの本質についての学びを深め、今後自分の身の回りで発揮できるようにする。

## (3) 広報のポイント

### 企画力・運営力アップセミナー編

三瓶青少年交流の家の法人ボランティア(100)、島根県内の大学(2)・短期大学(2)・専門学校(19)及び広島県内の大学(8)にも幅広く募集した。

### 想いを形にする編

「企画力・運営力アップセミナー編」の参加者が、仲間に広報をして、新たなメンバーを集めることを基本とした。島根大学教育学部附属支援センターを中心に、島根大学の学生支援課・島根県内の大学(2)・短期大学(2)・専門学校(2)にも案内や資料を郵送し幅広く募集した。また、「ボランティア入門セミナー」に参加してくれた大学生に対し、自己研鑽の機会の提供と当施設との結びつきを一層深めるための電話連絡を積極的に行った。

### 夢が現実になる本番編

「想いを形にする編」の参加者が、「さんべ祭」本番に必要なスタッフを集めるため、参加者各自の人脈を活かしながら広報活動を展開していった。その結果、運営に必要なスタッフを集めることができた。

## (4) 日程表

### 企画力・運営力アップセミナー編

7/2 (金)	20:00		20:30	21:30		23:00
		受付	講義	入	就	
		オープニング	「ねらいの共有」 ~昨年度の事例発表~	浴	寝	

7/3 (土)	6:30	9:00	12:00	13:00	17:00	19:00	21:00
	起つ朝 ど 床い食	講義 「企画するってど ういうこと？」	昼 食	講義 「やりたいことをカタ チに！」	つ夕 ど い食	実習 「アクションプランの 作成」	入就 浴寝

7/4 (日)	6:30	9:00	12:00	13:00	15:00	16:00
	起つ朝 ど 床い食	実習 「アクションプランの作成」	昼 食	実習 「アクションプラン の発表・評価」	クロージング	解 散

### 想いを形にする編

1 日 目	12:30	13:00	14:00	17:10	19:00	21:00
		受 付	オ ー プ ン グ	実習 夢ステージ企画に ついての話し合い	つ た ど い 食	実習 夢ステージ企画に ついての話し合い

2 日 目	6:30	9:00	12:00	13:00	14:00	15:00
	起つ朝 ど 床い食	実習 夢ステージ企画に ついての話し合い	昼 食	実習 夢ステージ企画に ついての話し合い	クロージング ふりかえり わかちあい	解 散

### 夢が現実になる本番編

10/22 (金)	20:00	20:30	21:30	23:00
		受 付	オ ー プ ニ ン グ 企画運営の準備	入 浴 就 寝

10/23 (土)	6:30	9:00	11:00	16:00	17:30	19:00	21:00
	起つ朝 ど 床い食	企画運営 の準備	さんべ祭本番	後片付け 明日の準 備等	夕休 食憩	初日のふりかえり 企画運営の準備 交流会等	入 就 浴 寝

10/24 (日)	6:30	9:00	14:30	15:00	16:00
	起つ朝 ど 床い食	さんべ祭本番	後片付け	ふりかえり クロージング	解 散

### (5)運営のポイント

#### 企画力・運営力アップセミナー編

参加者のモチベーションを第一に考え、参加者の状況を十分に確認しながら、講師と共に活動を検討し、その状況に合った柔軟なプログラム展開ができるようにした。

#### 想いを形にする編及び 夢が現実になる本番編

職員はリーダーに必要なことを伝える以外は支援者として関わることを基本的なスタンスとした。また、企画力・運営力アップセミナーで出てきた企画の幹になる部分と、新たな参加者の想いが上手く融合するように配慮した。特に、初参加の1・2回生が意見を言いやすい環境作りをリーダーと相談しながら進めた。

本事業に参加する青年の目的が「自己啓発」「スキルアップ」であることはアンケートやふりかえり用紙から伺えるが、初めての参加者にとっては他の参加者との交流も大きな目的になっている。このような参加者意識の違いをオープニングで把握し、プログラム中の満足感を、会話や表情等から読み取ることで把握し、参加者の精神的な状況を十分確認しながら展開した。

#### (6)安全管理のポイント

朝・夕のつどいの後や全員での話し合いの際に健康状態を確認するとともに、随所で休憩をとりゆとりのある活動になるよう心がけた。また、リーダーにも健康面について配慮するよう伝えた。

草木染やカラーキャンドル作りをする班では火気の使用を伴うため、班員が事前に製作をして安全管理について認識をもたせた。

#### (7)アンケートの満足度・ふりかえりの主な記述

##### 企画力・運営力アップセミナー編

満足度（アンケート回答者18人中）満足11人（61.1%）やや満足7人（38.9%）

- ・ みんなでどうするか決める場面があったこと。小さなことでもみんなでどうするか決める場面は、必ず何か心の中で起きるから良いと思いました。
- ・ 自分のやりたいことについて考えられたこと。見通しをもてたこと。新たな出会いがあったこと。去年とは違うメンバーになって楽しそうなアイデアが出たこと。
- ・ 企画の前にはねらいがあって、ねらいの前には発想があって、発想の前には自分の今までの経験があるということ。
- ・ 自分の意見をアウトプットする力がついた。アイスブレイクは打ち解けられる良い方法と思いました。

##### 想いを形にする編

満足度（アンケート回答者39人中）満足24人（61.5%）やや満足14人（35.9%）  
やや不満1人（2.6%）

- ・ みんなで大きな輪をつくった時より、少人数で話し合いをした時の方が意見が出しやすく、良い意見が出る。大きな輪をつくる時なるべく中の空間を空けない小さな輪をつくる。
- ・ 自分の意見を相手にわかるように述べたりするのはとても難しく、こういうことなだけでわかってもらえないということが多々ありました。先輩方の話し方を聞いて自分の言い方と何が違うのだろうと多くのことを吸収できました。
- ・ 初対面の人の中で自分の意見や考えを言うのははじめは緊張したけど、すぐに自分の意見が言えるようになって良かったです。プレゼンテーションをして人を説得する話し方をまねしたいと思いました。
- ・ 自分の考えを論理的に人に伝えるのが難しいと知った。自分が人の話をあんまり聞いていないと知った。「企画力・運営力アップセミナー」のときと比べると、人前で話をするのに抵抗がなくなった。人付き合いがとてもうまくなったと思う。
- ・ 話すタイミングやまとめ方（話の進行の仕方）によって話の深まりがかなり違ってくるということを感じました。
- ・ 同じゴールを目指していても、そこにどう向かっていくのかが人それぞれなので、話し合いの難しさを再認識しました。

##### 夢が現実になる本番編

満足度（アンケート回答者 32人中）満足18人（56.3%）やや満足14人（43.7%）

- ・ いろいろな人たちの想いを肯定的に受け止められるようになったこと。本当にそれでいいの？違うんじゃない？と思うこともあったけど、それもこの人なりに考え出した答えなのだろうからしっかり受け止めてそれに対して肯定的な言葉がけができるようになりました。少しは心の広い人間になれたのかな・・・。
- ・ 昨年の経験や思いを活かしながら楽しく活動できたのではないかなと思います。全体を見て動くこと、積極的に動けるようになったことは成長の一つだと感じています。人前で話すこと、自分の考えを伝えることを苦手としていた私が、こんな風になれたのが不思議です。
- ・ 一人一人考え方が違う、そのような人たちが集まって企画することの難しさと楽しさを感じました。3回目のさんべ祭でもまだまだ気づけなかった心遣いがあったうれしく思います。
- ・ 悪い点や良い点などを広い視野で見ることができ、みんなでそれを共有できた。子どもたちにキャンドル作りを喜んでいただいた。
- ・ 相手の思いを受け止めきれずに失敗してしまうことが多かった。人に支えられていることに気づけた。自分に対する向上心を得ることができた。
- ・ 最初からお客様の立場に立って活動できればよかったと思います。一度実行したあとに反省会、そしてさらに成功するよう改善することの大切さを学びました。
- ・ 自分の考えを伝えようと努力はしたけれど、わかりやすく伝えることはできなかった。確認は大事だとわかった。
- ・ 子どもたちに教えることがどれだけ大変か学んだ。問題の解決方法や違う見方を先輩や友達、職員さんから学んだ。
- ・ 自分の意見は多く言い、話を聞くときは聞いたが、話し合いがうまく進まないときイライラした。細かいところまでちゃんと準備をすることの大切さをすごく感じた。
- ・ 劇でお客さんがなかなか集まらなくて悔しかったですが、お客さんが少なくとも見に来てくださる人もいたので、その人たちを大事にしないといけないと感じました。以前の自分では「お客さんが多い=見てくれている」と思い込んでいたけれど、そうではないことを思えるようになったのが成長したと思います。

## 10 成果と今後の課題

### <成果>

- ・ 思いつきや知識を企画へと転換する話し合いの中で、コミュニケーション能力・合意形成能力・問題解決能力を必要とする場面を数多く体験する事ができた。
- ・ 職員が必要なときのみ助言を与えるサポート的な役割に徹することで、参加者は主体的に「さんべ祭」に向けての企画づくりや、実現に向けての組織づくりなどを行うことができた。
- ・ 特に大学1・2回生にとっては十分な話し合い活動の中で、他人の意見を聞きながら多角的にものごとを見る力を養う場となった。
- ・ 1・2回生が参加しやすく、意見を言いやすい少人数でのグループワークの形態を作ることができた。グループ内の役割も1・2回生がリーダーを務め、3・4回生がサポートする形が自然と出来上がった。
- ・ 参加者は「さんべ祭」の当事者として、自らのネットワークを積極的に活用して当日の企画・運営に必要なスタッフを確保した。そのことが参加者のさらなる意欲の向上につながった。
- ・ 地域の方々から、「大学生が一生懸命エコについて考え、さんべ祭に参画している姿を見て感心した」という評価を聞くことができた。

## < 課題 >

本事業は5年目であり、過去の参加者にとっては事業の流れが定着している。しかし、これまでの「さんべ夢ステージ」が、熱心な学生による熱い想いを結集させる企画であったため、初参加の学生にはややとまどいもある。そのためか事業の初回あたりは、1・2回生の参加者が少なかった。今後は1・2回生が中心となって活動し、3・4回生はサポート役となって、それぞれが満足感や達成感を得られる事業にしていきたいと考える。

### 1.1 普及計画・普及実績

事業内容および成果について当施設ホームページで紹介する。また、公立の青少年教育施設や大学等へ事業紹介の場を積極的に設定し成果の普及に努める。さらに、事業報告書を作成し青少年教育施設、青少年教育関係機関等に送付し成果の普及を図る。

### 1.2 その他

#### 企画力・運営力アップセミナー編

講師に山口県十ヶ峰青少年野外活動センター所長木橋悦二氏を招き、企画・運営に関する基本的な事柄から実際に企画を実現するための重要なポイントについて、理論を体験的に学べるように様々なアクティビティを通して指導していただいた。グループに分かれてのアクションプラン作成の時間では、講師から指導された「発想は鍛錬」「ネーミングは大切」などの言葉を意識しながら活動していた



ねらいの共有



企画・運営についての講義



体験的なアクティビティ



グループでの企画の作成



プレゼンテーション



全日程を終了し満足した顔の参加者

#### 想いを形にする編

「企画力・運営力アップセミナー」の参加者の想いを引き継ぎながら、「Can Do SANBE ~ありがとう~」というエコを意識した全体テーマのもと、ステージ班・ふるしき班・キャンドル班・ファッションショー班の4つのグループに分かれて活動が行われた。



仲間集めに向けた活動プログラム



職員に対するプレゼン



ふるしき班の準備



ファッション班の服の整理



ふるしきの草木染めを試行するふるしき班



キャンドル班の試行



温暖化防止の劇を試行するステージ班



各班の情報の共有化をする全体会



本番のさんべ祭まで1週間

### 夢が現実になる本番編

本番までに練り上げられた企画は次の通り。

ステージ班：「地球温暖化防止」をコンセプトにしたステージ企画。

ふるしき班：草木染で風呂敷を作る体験を通して、エコバッグに代わる昔ながらのふるしきの良さも再認識してもらおう。

キャンドル班：廃油でカラーキャンドルを作る楽しさを子ども達に体験させ、リサイクルの発想をもってもらおう。

ファッションショー班：日ごろお世話になっている家族や友人に服装をチェンジしてもらい、感謝の言葉を送り、絆を深める。



さんべ祭前夜の打ち合わせと準備



ふるしき班の染料の準備



いよいよさんべ祭当日の朝の最終確認





キャンドル班の説明の様子



ファッションショー開催の様子



草木染の楽しさを体験



笑いあり学びありの温暖化防止ショー



夢ステージ感動のフィナーレ



笑顔の参加者たち！！

企画の段階から、「この企画で何を伝えたいのか」を原点に据え、ぶれることなく企画を進めていくことができた。さんべ祭当日の派手さや華やかさは少なかったかもしれないが、エコについて青年の発想を結集し、充実した内容の企画が出来上がった。数多くのさんべ祭参加者にも企画を楽しんでもらえ青年たちは達成感も味わえた。

普段体験できない長時間のグループワークを通して、青年たちは一人ひとりの発想を引き出す話し合いの形態や進め方を模索し、聞き方や話し出すタイミングにも心を配った。はじめはギクシャクした関係であったが次第に気持ちを重ねあわせ、加速度的に企画を練り上げていった。青年たちが「リーダーシップ」を体験的に身につけ、「チームワーク」で課題を解決する方法を体験から学習できたことは、本事業や当施設の存在意義を表すものになったと考える。

(担当 小西 勝典)